

特集

公認心理師 現状と将来

心理職の国家資格化は、多くの心理学関係者にとって積年の願いでありました。その熱い願い、そして、それを実現するためのさまざまな活動とたゆまぬ努力が実を結び、2015年に公認心理師法が公布され、先の2018年9月、はじめての公認心理師試験が実施されました。この第1回の公認心理師試験では35,020人が受験し、27,876人が晴れて合格しました。その結果、ついに国家資格として認められた公認心理師が誕生することになったのです。

今回の特集では、出来たての国家資格、公認心理師について紹介するとともに、心理学に関わるさまざまな立場から、この資格に期待することをとりあげます。公認心理師という言葉は耳にしたが、よくわからないという方も、様々な領域がある心理学関係者全体の中にはいらっしゃることでしょう。そもそもこの国家資格はどのようなものなのか、どうやって資格が取れるのか、資格を持つと何が変わるのか、あるいは変わらないのか。生まれたての資格ですから、様々な疑問があるのは当然です。この特集を読むことで、このような疑問が少し解消できるかもしれません。多くの心理学関係者の強い願いが実を結び、誕生した公認心理師。その現状と将来像を探ってみましょう。

(大久保街垂)